

記 入 日 2015 年 1 月 16 日

## 1. 概 要

実践団体名	能代市消防団		
連絡先	0185-54-4047		
プランタイトル	能代市消防団防災教育講座		
プランの対象者※1	小学生（低学年） 小学生（高学年） 保護者・PTA 防災関係者 その他（設計事務所・ハウスメーカー）	対象とする 災害種別※2	火災

## 【プランの目的・ここがポイント！】

県内では子供たちの8割程が自宅の2階を寝室にしているため、いざという時の避難方法を家族で話し合い、2階からの避難手段を確保する必要がある。小中高生を抱える家庭や地域防災の要である消防団員はもちろん、設計会社やハウスメーカーにも早期避難に不可欠な連動型火災警報器設置や避難経路を考えたプランニングの検討をしてもらうため、家屋火災に備えるポスターの作成ならびに防災講座を実施し啓発を行う。

## 【プランの概要】

- ・家屋火災に備える啓発ポスターの作成
- ・小学校での防災教育講座の実施
- ・消防学校での女性消防団員への講義実施
- ・研修会での消防団員への講義実施
- ・建築士会の会合でのポスター配布
- ・設計事務所やハウスメーカーを訪問しての啓発活動

## 【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ・設計事務所やハウスメーカーに連動型火災警報器設置を考えてもらう糸口となる
- ・家庭で家族防災会議を開いてもらうきっかけを作る

## 2. プランの年間活動記録 (2014 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月			
5 月	製作物検討		
6 月		ポスター考案	
7 月		ポスター印刷	設計事務所・ハウスメーカー訪問
8 月			設計事務所・ハウスメーカー訪問
9 月	講座内容検討 学校との調整		設計事務所・ハウスメーカー訪問
10 月		パワーポイント作成	県建築士会定期講習ポスター配布 女性消防団員防災教育講座
11 月			小学校防災教育講座
12 月			
1 月			
2 月			
3 月			

### 3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：  2 】※3

タイトル	女性消防団員防災教育講座
実施月日（曜日）	10月25日（土）
実施場所	秋田県消防学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：中田潤 所属・役職等：能代市消防団長及び秋田県消防協会会長
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×1時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	秋田県内の女性消防団員の防災意識を高め、各地域・家庭に還元してもらう。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義実施（県内で発生した家屋火災事例、連動型火災報知器の必要性などの説明）</li> <li>・防災啓発ポスターの配布</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災啓発ポスター</li> <li>・パワーポイント資料</li> </ul>
参加人数	12名
経費の総額・内訳概要	防災啓発ポスター制作費 100,000 円の一部
成果と課題	<p>【成果】 消防団員への講義により、各地域・家庭で子供を守る仕組みを作るきっかけを作ることができた。</p> <p>【課題】 県内では女性消防団員の数がまだ少ないので対象者が少なかった。</p>
成果物	防災啓発ポスター

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：  2 】※3

タイトル	小学校防災教育講座
実施月日（曜日）	11月13日（木）
実施場所	能代市立淳城西小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：中田潤 所属・役職等：能代市消防団長
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×1時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	子供だけでなく、子供を守る大人に連動型火災報知器の必要性や家族防災会議の重要性を理解してもらう
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義実施</li> <li>・放水・火煙体験</li> <li>・防災啓発ポスターの配布</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災啓発ポスター</li> <li>・消防団員</li> <li>・消防車</li> </ul>
参加人数	約500名
経費の総額・内訳概要	防災啓発ポスター制作費 100,000 円の一部
成果と課題	<p>【成果】 火煙体験により子供たちも身をもって火災の恐怖を感じられた。保護者にも参加してもらうことで、家族防災会議の啓発も行うことができた。</p> <p>【課題】 平日昼間の開催だったため保護者の参加がすくなかった。</p>
成果物	防災啓発ポスター

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>子供たちが学校にいない時に子供たちを守る防災教育を行いたいという目的から、連動型火災報知器の設置推進や避難経路を考えたハウスプランニング、家族防災会議の重要性などを訴えることは決まったが、具体的な啓発手段を検討するのに難儀した。リーフレットも考えたが、リーフレットはもらった時に読むだけで、その後は話題にならない場合が多いため、設計事務所、ハウスメーカー、学校、消防団施設や消防団員宅への配布と掲示を行い、できるだけ大人たちの目につくようにした。</p>
<p><b>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>ポスター制作にあたってはどういった内容であれば興味を引くか、事前にハウスメーカーや設計事務所を訪問しヒアリングを行った。できるだけ目につくようにし、何度も話題にしてもらいたいということで制作をデザイン会社に依頼した。</p> <p>効率的に多くの場所にポスターを掲示してもらえるように、建築士会や教育委員会にもポスター配布にあたって協力をお願いした。</p>
<p><b>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>ポスター掲示だけでは、大人たちの自主性に任せきりになってしまうと考え消防団員や児童・保護者向けに防災教育講座を行い、連動型火災報知器の設置推進や避難経路を考えたハウスプランニング、家族防災会議の重要性について更なる説明を行った。スケジュールの都合で独自の講座を実施できなかった団体には、当該団体主催の講習や会合に出席した際に、ポスター配布と概要説明を行い、可能な限り多くの場所にポスターを掲示するよう努力した。</p>

## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	能代市教育委員会	学校へのポスター配布・掲示  小学校での防災教育講座の実施
保護者・ PTAの組織		
地域組織		
国・地方公共団体・ 公共施設		
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	秋田県建築士会 能代山本建築士会  秋田県消防協会	ハウスメーカー・設計事務所へのヒアリング  定期講習でのポスター配布  女性消防団員防災教育講座の実施  消防施設へのポスター配布・掲示

## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<b>成果として 得たこと</b>	<p>子供たちだけでなく、子供たちの命を守る大人（設計事務所、ハウスメーカー、消防団）への防災教育を行うことが出来た。</p> <p>能代市内の学校や企業、公共施設など至る所にポスターを掲示し、家庭や職場での家屋火災についての議論のきっかけを作ることができた。</p> <p>消防団員への講義実施により、地域で子供を守る仕組みをつくる道筋をつけられた。</p>
<b>全体の反省・ 感想・課題</b>	<p>秋田県消防協会でも同様のポスターを制作するなど能代市外の地域への波及効果も生れた。</p> <p>どの程度、家庭や職場で話し合いなどが行われ、防災意識が高まったのかを検証することができればなお良かった。</p>
<b>今後の 継続予定</b>	<p>引き続き学校での防災講座、設計事務所やハウスメーカーの訪問、建築士会への会合での啓発活動、消防団員への研修を行っていく。</p>

## 7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

県内では子供たちの8割近くが自宅では2階に寝ている。災害発生時に2階から避難する方法を家族で話し合わなければならない。さらに避難経路を考えたハウプランニングや連動型の火災報知器の必要性を保護者やハウスメーカー、設計事務所にも理解してもらわなければならないとの思いから活動を始めた。

しかしながら、定期的に避難訓練が実施されるなど防災教育の環境が整っている学校とは違い、建築士会や保護者の防災意識を高めるには、集まってもらう機会を作ることから始めねばならず、スケジュールの関係もあり、困難を極めた。

子供たちの命を守る「大人への防災教育」にもっと力を入れて頂ければ、社会の理解も深まり防災教育への普及へつながっていくと思う。

女性消防団員防災教育講座



防災啓発ポスター



小学校防災教育講座



(自由記述: 1/1)